

「雄町」のいわれ と 酒米の系譜

4大酒米の一つ「雄町」は、備前国 上道郡 雄町村(現岡山市中区雄町)の篤農家 岸本甚造(きしもと じんぞう)翁が、1859年(安政6年)頃に伯耆大山(鳥取県)へ参拝した帰りに見つけた2本の穂を持ち帰り、1866年(慶応2年)に雄町の元となる原種を選抜したと言われています。

当時は「二本草」と名付けられていましたが、その後、酒米としての評判が高まり、その土地の名をとって「雄町」と呼ばれるようになったと言われています。

「雄町」は、「山田錦」や「五百万石」などの優良な酒米の先祖であり、多くの酒米が「雄町」の系統を引き継いでいます。

